

これからの時代に求められる福祉コミュニティのあり方

- コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の役割と機能から -

城西国際大学大学院 福祉総合学研究科 百瀬 博隆（会員番号 7922）

キーワード：福祉コミュニティ、地域福祉、コミュニティソーシャルワーカー

1. 研究目的

本論文のテーマである「新たな福祉コミュニティ」を追求するにあたって、将来に向けた地域福祉の発展的方向性を考えていく中で、これまでの地域コミュニティ変遷の過程と現状の分析を行い、地域に混在する様々な福祉課題と解決策について検討していく。そして、これまではなかった地域コミュニティにおける諸問題への対応から新たな福祉コミュニティの在り方を考えていきたい。

その中で、地域社会においてソーシャルワーカーなどの福祉専門職が果たすべき役割や求められる機能とは何なのかを地域住民の視点から考え、そのための人材養成や具体的な人材設置の現状及び展望についてまとめ、新しい福祉コミュニティの創出におけるコミュニティソーシャルワーカー（以下、CSW とする）の役割や機能について検討していく。

『無縁社会』（NHK「無縁社会プロジェクト」取材班編著 文芸春秋2010）など、最近テレビや新聞などで、人間関係の希薄化・無縁化をテーマとした地域コミュニティにおける問題が数多く取り上げられており、それに対する社会の反響も大きいものがある。福祉コミュニティとは、支援の必要な人を地区の中心に据えるとともに、その人たちに向けた支えあいの活動を地区の活動として住民みんなで主体的に取り組んでいるコミュニティであるが、人と人とのつながりさえも無くしていく地域コミュニティが福祉コミュニティへと転換していく方法を見出すことができるのであろうか。

本研究では、これまでの地域コミュニティの変遷を踏まえて、現在の地域福祉を取り巻く課題や福祉コミュニティの形成について整理し、これからの将来に向けて CSW が果たすべき役割や機能、また地域コミュニティが CSW に求める要素などについて分析・考察する。そこから、新たな時代に求められる福祉コミュニティの在り方について自分の考えを述べていくことにしたい。

2. 研究の視点および方法

本研究では、社会構造の変化に伴う地域コミュニティの変遷をたどり、さらに現在の地域社会の状況について様々な角度から分析・整理しながら、これまでの地域福祉の変容を見つめ、新たな福祉コミュニティの在り方について追及していく。具体的には、千葉県山武郡大網白里町、群馬県邑楽郡大泉町などをフィールドにした調査を行った。

また、CSW を養成し、設置している取り組み事例として、自治体などの養成講座の内容や、設置の取り組み等を関係機関の資料から調査した。本研究では、専門職員としての

CSW の養成において、養成する側から見た視点と地域住民が職員に求める要素とのギャップに着目している。さらに、コミュニティの変遷とコミュニティを取り巻く諸課題に対して、CSW が地域でできることはどのようなことか、またどのようにアプローチしていくかという点を重視して、新たな福祉コミュニティの在り方を探っている。

3. 倫理的配慮

本報告は、日本社会福祉学会研究倫理指針に則って行った研究によるものである。

4. 研究結果

昭和 44 (1969) 年に「国民生活審議会コミュニティ問題小委員会」(経済企画庁)が公表した答申、「コミュニティ - 生活の場における人間性の回復 - 」は、生活の場である小規模の地域社会を“コミュニティ”とし、「人間性の回復」という視点から、福祉コミュニティの重要性を指摘している。それ以降、様々な形でコミュニティを取り巻く施策が講じられてきた。

しかし、それから 40 年以上が経った現在でも、コミュニティの崩壊が叫ばれている。

高度経済成長時代に急速な工業化・都市化が進展して大規模な人口移動が発生し、農村部は村落共同体が解体しはじめ過疎化が進んでいった。一方で、農村から移動してきた主に若い世代の新住民により過密化した都市部では、旧来の自治会が衰退していくとともに人々の生活は核家族化を通り越して核分裂化(個人化)していった。

私たちは、高度成長時代を経て個人が不自由なき生活を手に入れるという豊かさを追求する一方で、手に入れた自由や豊かさを他者と分かち合うことなく独占するあまりに、集団における助け合いや相互扶助、共生精神などのような価値観が相対的に低減させられていったのではないかと思われる。つまり集団よりも個人が優先される社会になってきたと言えるのではないだろうか。しかし、平成 23 (2011) 年の東日本大震災で、私たちは人と人とのつながりの重要性を改めて再確認させられたのではないかとも思う。

このような中で、地域住民の主体的参加による共生社会の実践としての“福祉コミュニティ”を築いていくために、CSW はどのような能力を身につけ、どのように地域社会に働きかけていったら良いのだろうか。人材を養成する側の視点で考えると、養成する課程において重視するものは、福祉の専門知識や制度についての理解、事例研究などのどちらかと言えば“専門研修”ではないかと思われる。現在行われている養成研修のプログラムを見てもこのような内容が多い。

しかし、地域に出て地域住民の声を聞き、様々な活動をしていく中で感じた CSW に必要とされているもの、地域住民が求めている要素は、地域の社会資源を有効かつ効率よく活用しながら、その福祉ニーズに合わせて柔軟に地域住民を編成あるいは再編成し、場合によって組織化して活動を促していく能力ではないかと思う。その中から新たな福祉コミュニティの在り方が見えてくるのではないだろうか。